



# 砂漠に生きる唯一無二の熊 「ゴビヒグマ」を救え

DELレポート No. 31

2024年5月  
作成者:S.B

 **脱炭素経営ドットコム**  
By DENKOSHA

「DELレポート」とは、環境やSDGsに係る社会問題を取り上げ、原因・背景から解決に向けた施策事例や将来の展望までを調査しコンパクトにまとめた報告書です。脱炭素経営ドットコムを運営する株式会社電巧社では、全従業員が本レポートの作成に取り組んでいます。



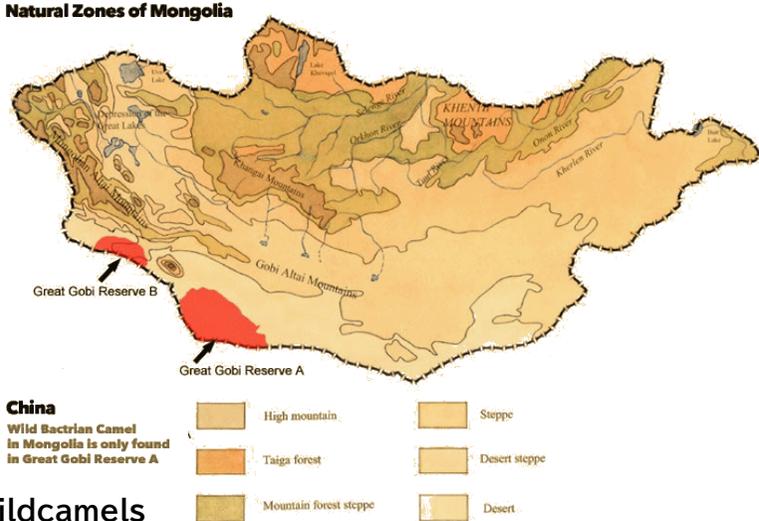
# ゴビヒグマを取り巻く環境

**🐾どんな動物？**：ゴビヒグマはモンゴルにしかないヒグマの一種だ。厳しい砂漠で生息する世界で唯一のクマの亜種である。ゴビヒグマの外観は、ヒグマより小型であり、平均体長は168cm、体重は90kg

**🐾現状は？**：現存する個体数は50頭以下と推定され、国際自然保護連合レッドリストの基準では絶滅危惧の中でも最も絶滅のおそれ強い「深刻な危機」に相当する希少動物である。現在の保護状態はモンゴル南西部のグレートゴビA厳重保全地域(下記地図参照)に生息している。保護エリアの面積は東京ドームより約96万倍大きい

**🐾絶滅理由は？**：ゴビヒグマの存在はモンゴル人しか知らない原因は世界中でニュースにならないことから無関心になっている。また、ゴビヒグマをそんなたくさん研究されていない。知られていないため、サポートがする人が少ない。また、あまり研究されていないため、ゴビヒグマに合った食料の研究も行われていない

## ■ モンゴル国内ゴビヒグマの保護エリア



出典: wildcamels

## ■ 砂漠に生きるゴビヒグマ



出典: montsame

世界的でも稀な砂漠で生息する「ゴビヒグマ」を救いたい

## 🌐解決事例は？:

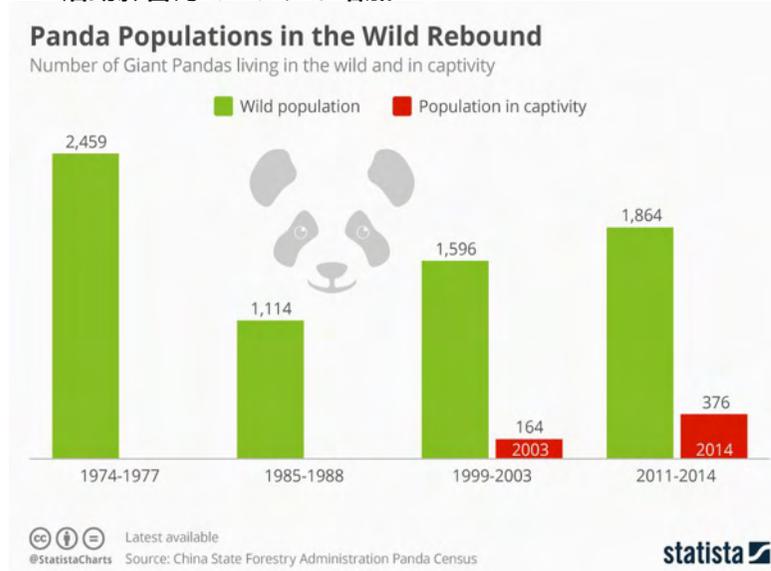
世界中でパンダ保護活動のために人とパンダの「共存関係の構築」、「自然環境の保護」を理念に、インターネットを通じて、パンダを取り巻く環境の実態を理解してもらうとともに、日に日に絶滅の危機が叫ばれているパンダの生息環境を改善する活動の一助となるための保護事業に、一人でも多くの方々に参画してもらうことを目的として活動が行われている  
こういう活動のおかげでいろんな国々で注目となってパンダが救われている事例がある

### ■ 中国ジャイアントパンダ保護研究センター



出典:PR TIMES

### ■ 活動影響力でパンダが増加



出典:Statista

パンダ保護戦略(研究、外交など)は成功している

**👉 助ける方法:** 世界中に住んでいるモンゴル人たちがゴビヒグマ大使活動を行う。例えば、日本でのゴビヒグマ大使としてできる活動は日本で活動しているモンゴル人相撲取達の協力を活かして化粧まわしに<ゴビヒグマを助けて~>というメッセージ・キャラクター・QRコード(そこからゴビヒグマの現状を伝える動画と支援の活動の説明を受ける)を共に載せて作る。相撲が好きな人たちがゴビヒグマのことを好きになり、活動が広がり、食料研究所の資金を起こすまでの大活動になると思う。また、知名度を上げるため、日本の動物園にて限定期間でゴビヒグマを見せることも必要

**👉 残る課題:** ゴビヒグマを世界中の動物園にて限定期間で見せる活動が必要だが、モンゴル政府がゴビヒグマを移動させる許可を出すかが問題

## ■ 相撲土俵



出典:筆者作成

## ■ ゴビヒグマの化粧まわしイメージ図



出典:筆者作成

日本のサポートで大きく動く可能性がある

## ■ 参照・引用資料

- Wikipedia, 「Gobi bear」, 2023年11月22日([https://en.wikipedia.org/wiki/Gobi\\_bear](https://en.wikipedia.org/wiki/Gobi_bear))
- Statista, 「Panda Populations in the Wild Rebound」, 2019年6月19日([Chart: Panda Populations in the Wild Rebound | Statista](https://www.statista.com/chart/1000000/panda-populations-in-the-wild-rebound))
- Wildcamels, 「タイトル」, 2023年12月10日(<https://www.wildcamels.com/what-we-do/mongolia/>)
- Prtimes 「臥龍中国パンダ保護研究センターについて」, 2023年11月15日(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000007.000041792.html>)
- pandachina 「パンダ大使からのメッセージ」, (<https://www.pandachina.jp/about/taishi.html>)



<https://de-denkosha.co.jp/datsutanso/>

脱炭素経営とは、再生可能エネルギーを創る「創エネ」、使う電気を減らす「省エネ」、創った電気を貯める「蓄エネ」をうまく活用し、会社・事業で排出する温室効果ガス「0」を目標にする経営のこと。

中小企業の私たちにも、できる取り組みが沢山あることを伝えたい。このような想いで、90年以上「電気」に向き合ってきた電巧社ならではのアイデアが詰まった創エネ、省エネ、蓄エネのソリューションをお伝えできる情報を、当サイトで発信しております。

DELレポートに関するお問い合わせ先はこちらへ

電 気 の コ ン シ ェ ル ジ ュ

**DENKOSHA**

株式会社 電巧社

〒105-0014 東京都港区芝2-10-4

TEL: 03-3453-2221(本社代表)

担当: DELレポート事務局

- 本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- 本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- 本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失 利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- 本レポートに関する知的所有権は株式会社電巧社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。